

“次世代のまちへの挑戦” 自由民主党
さいたま市議会議員

井原ゆたか

井原ゆたか市政レポート vol.4
(発行)井原ゆたか事務所 さいたま市中央区下落合1071-1 MIビル3F

ご挨拶

市民の皆様には議会へと送り出していただきまして、ちょうど任期半分の2年が経過しました。地元の中央区の案件から、さいたま市全体を見据えた案件まで多岐に渡り仕事をさせていただいております。中央区では、与野本町駅を中心として、中央区役所周辺の公共施設を再編していく、まちづくりマスタープランがまさに動き出しております。一方で、大宮駅は北陸・北海道新幹線の開業に伴い、国から「東日本の玄関口」と位置付けられたことで、さいたま市はこれから注目される地域になることでしょう。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年も目前に来ており、「運命の10年」と言われる今、さいたま市も都市間競争に負けることなく、成長していかなければなりません。一方で、少子高齢化が一層進む中で、待機児童問題や介護問題など、民生費にも多額な予算が必要となっており、抜本的な福祉政策も見直しが必要になってきます。これから生きる世代のためにも、次代を牽引していけるよう、私は全力で市政へ注力してまいります。

総合政策委員会にて政策を議論

①さいたま市の都市戦略

地方創生という国からの指針の中では、都市間競争に負けない戦略をさいたま市として持つことが求められるでしょう。現在では、例えば「CS90運動」のような実体のない計画が多い中で、具体的なまちづくりを描いた計画が少ないことが市の課題です。私は、「**東日本の玄関口**」と大宮駅が位置付けられたのであれば、それに伴った都市計画の見直しを行うことが急務だと考えています。

1. ホテル誘致に向けての施策

国交省からも昨年6月に自治体向けに、**宿泊施設の整備に伴う容積率緩和**の発令が出されており、さいたま市も積極的に活用するべきでしょう。さいたま市は全市でも客室数が2,500室弱しかなく、イベントやコンベンションを行っても、宿泊することが出来ずさいたま市への来訪者が東京に流出している現状です。地域経済活性化のためにも、利便性の高い大宮駅周辺を中心に、ホテルの誘致を市として行うべきであり、それに伴う都市計画の変更を検討する必要があります。

2. 国家戦略特区の取得

国家戦略特区とは、産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点の形成に関する施策の総合的かつ集中的な推進を図るため、**特定の地域にて様々な規制緩和**を受けることが出来るものです。この特区を取得するには、地域性を活かした新しい取り組みを軸に、国から認可される必要があります。首都圏では、**東京都、神奈川県横浜市、川崎市、千葉県千葉市、成田市**などで取得している一方で、さいたま市は提案すら出来ていない状況です。私は、「東日本の玄関口」という特性を活かし、この特区を全力で取得することを市役所に働きかけると共に、私自身も特区提案を考えていきます。

②さいたま市の国際戦略

さいたま市では現在ビッグイベントやグローバルスタディなど、表向きは国際的な事業を行っているように見える反面で、目に見える形で海外の都市との事業提携に結びついていないことが現状です。私は、例えば自転車のまちづくりと紐づけてフランスや、産業クラスターとのビジネス連携を行っているドイツと、姉妹都市を締結し、その都市の産業をさいたま市に持ち込むことで、新たなまちの魅力として発信することを提案しました。その背景には、現在のさいたま市は旧市自体の姉妹都市はあるものの、合併して15年経った今まで、政令市になってからは**ひとつも姉妹都市締結をしていない**という現状があります。グローバル化が進む今、さいたま市も**海外の都市との提携**を積極的に進めていくべきでしょう。

③今後の公民連携事業の在り方

公共施設の改修や建替えのニーズが高まる中で、市の歳出を抑えるという意味で、また公共事業においても**税金や補助金に頼らずに、自らで事業収益をあげて運営をしていく公民連携**を考えていく必要があるでしょう。近年の公民連携事業の代表例として、豊島区において区役所とマンションを複合化することで、総事業費435億円である豊島区役所新庁舎を実質税金拠出ゼロで建設した事例が挙げられます。さいたま市中央区でも地の利に優れた場所に公共施設や市有地もたくさんあり、そのメリットを最大限に生かしていく公民連携を積極的に行うべきだと、提言しました。「東日本の玄関口」として、民間企業からも注目を集めている今、さいたま市として誇れる公民連携事業を手がけ、街の新たな賑わいの創出にも繋げていきたいです。



豊島区役所新庁舎



民間企業で働いた経験を持つ井原ゆたかだからこそ出来る具体的な政策を積極的に提案してまいります!

地元選出の議員として、中心的に与野本町マスタープランを進めています！

中央区役所周辺をはじめとした 3拠点の強化(LP1)

⇒ 中央区役所、与野中央公園、与野本町駅

①中央消防署の移転が決まりました！

築50年以上が経過した現在の中央消防署は老朽化が進み、近隣住民の安心安全な暮らしを守るために、また施設を使う職員の安全管理および危機管理の観点からも、早急な整備を求められている中で、中央消防署の移転整備が決まりました。新消防署の場所は赤山通りと中央通りの交差点に隣接する旧公務員宿舎の跡地になります。現行の2000㎡弱の敷地から、5000㎡強の敷地となることで、**新都心地域の大規模災害にも備えられる防災拠点**へと生まれ変わります。その一方で、**従来の住環境にも配慮する運用**を行うよう、消防署へ要望もいたしました。市民との交流の場も持てるような新たな消防署の姿を創っていきたいです。なお、現在**H33年度供用開始**予定です。

(⇒H28.12本会議の井原ゆたか附帯決議討論参照)



※本件は中央区選出5名の議員が協力して責任をもって進めます。会派を超えて、H28年に新築された緑消防署の視察も行いました。

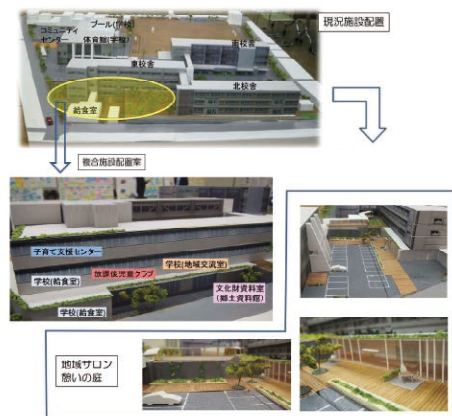


中央消防署が移転することで、中央区役所周辺の公共施設再編もいよいよ動き出します！マスタープランが具現化していく第一歩となる事業です。

与野本町小学校と 周辺公共施設の複合化(LP2)

私の母校でもある本町小ですが、北校舎が老朽化に伴い建て替えが決まりました。一方で、本町小を多様な教育の場にすると共に地域市民との交流の場にも出来るように、また今後の公共施設の歳出を抑えていくためにも、周辺の公共施設との複合化の検討を行い、**子育て支援センターよの、与野郷土資料館との複合施設**を建設することになりました。本計画は、地域市民と行政がワークショップの中で一緒に検討し、計画が決まりました。(私も卒業生として、議員になる前から参加しておりました。)

H32年4月に本校舎は完成予定です。さいたま市においても、学校と公共施設の複合化は初めての事例となります。



与野本町小学校複合化ワークショップにて説明

②与野中央公園の整備状況

与野本町駅から徒歩5分の好立地に、8.1haの敷地面積を有する広大な都市公園へと整備が進められる予定です。20年以上も荒地の状態ではありますが、**H29年度には基本計画の見直しにも着手**される予定で、体育館やプールなどを統合した複合スポーツ施設の設置も計画されています。本来であれば、H29年度中には基本設計にも進むことが出来る予定でしたが、埼玉県の水事事業との折り合いがつかず、計画が遅れている現状です。埼玉県の計画に引きずられて、この中央公園の整備が遅れないよう働きかけていく所存です。中央区は、一人当たりの公園面積が1.80㎡(10㎡以上推奨)と極めて少ない現状の中で、本公園の一刻も早い整備が望まれます。

(⇒H27.9井原ゆたか一般質問参照)



現在の与野中央公園の状況

歴史を伝える本町通りの まちづくり(LP3)

江戸時代から市場町として栄え、さいたま市においても**歴史街道として重要な位置づけとなる本町通り**を、今後も後世に伝えていくために、また沿道空間を活用していくために、本町通りの環境整備を行います。現存する蔵造りの住宅や歴史を伝える史跡を保存・活用すると共に、歩行者や自転車の交通安全性が確保出来るような歩道の整備・無電柱化などを進めていきます。毎年盛大に行われている与野夏祭りや、正月の七福神パレードなどの現存のイベントをさらに活性化していくだけでなく、芸術劇場と連携した新たな取り組みも考えていきます。**H29年度は本町通りの協議会の予算が確保**され、いよいよ待望の本町通りの整備も動き出します。

(⇒H28.6井原ゆたか一般質問参照)



本町通りの整備は多くのご要望をいただいております。
昔の歴史を、責任を持って未来へとつないでいきます。



昔の本町通りの街並み。桜並木が美しかった。

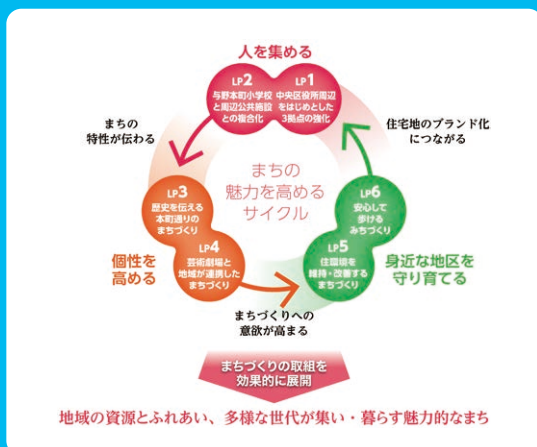


本町通りの将来像。昔の景観を残すと共に、歩道の整備を行う。

与野本町駅周辺のまちづくりはこう動く！

与野本町駅周辺地区まちづくり マスタープランとは？

与野本町駅を中心として、中央区の公共サービスの核となる中央区役所やその他公共施設、ばらまつりで有名な与野公園、国際的に評価の高い演目が数多く開催される彩の国さいたま芸術劇場などが点在しており、この周辺では生活利便性が高い住宅地も形成されている。今、少子高齢化が進む一方で、公共施設の老朽化も懸念されている中で、これからも”選ばれる住宅地”を目指し、持続的なまちづくりが必要とされる中で、地域と行政が連携して、当地区のまちづくりの将来像を策定した。



地域のご要望にも細かく対応

①下落合小学校区域のグリーンベルトの整備

マンションが増え、生徒数が増加する**下落合小学校の通学路**において、一部グリーンベルトが設置されていなかった場所がありましたので、対応させていただきました。朝は車の通行も多い場所ですので、子供たちの安心安全につながると考えられます。

※保護者の方々からのご要望で対応させていただきました。



②本町公民館前の側溝の整備

側溝に泥がつまり、排水機能が損なわれた状態でありましたので、即刻中央区役所に対応していただきました。

※本町公民館の改修計画も現在進めています。



こんな活動もしています

①与野本町小学校・与野中央公園にて天体観望会を開催

NPO法人みらいの会主催の天体観望会を、天文学の理学博士としてお手伝いさせていただきました。13cm反射式望遠鏡と10cm屈折式望遠鏡を並べ、最大光度の金星と月を子供たちやご近所の方々に見ていただきました。月と同じように満ち欠けする金星を、望遠鏡で覗くと驚きの連続だったと思います。今後みなさまに宇宙を身近に感じていただける活動を行いたいです。

③大戸公園北西部の橋の歩行者通行

将来的には道場三室線として4車線道路の整備が予定されている場所ですが、鴻沼川上に橋梁はすでに整備済みでしたので、開通に先立って歩行者だけは渡れるように歩道を開放していただきました。

※道場三室線は**国道463号線の渋滞解消**に向けて、非常に重要な道路です。鈴谷交差点付近の交通流の適正化も検討していきます。



④西与野地域へのコミュニティバスの導入

現在、中央区にはコミュニティバスが一台もない状態でしたが、北与野 or 新都心駅～イオンモール与野～**西与野**～桜区役所の区間でコミュニティバスの導入を提案させていただきました。実現すれば、中央区と桜区の区をまたぐバスとして、さいたま市では初の事例となります。(⇒H28.12桜区土橋議員一般質問参照)



②ボーイスカウトの埼玉キャンポリーに参加

埼玉県内のボーイスカウト所属の子供たちが集まる埼玉キャンポリーへ2泊3日で参加してきました。私自身、ボーイスカウト第102団に所属しております。子供たちがキャンプの設営や炊事など、野外活動に触れられる機会があることはとても良いことだと考えています。私もアウトドアが大好きですので、子供たちにも多くの経験をしてもらいたいと思っています。

井原ゆたか プロフィール

昭和58年1月13日さいたま市生まれ(34歳)

淑徳与野幼稚園 卒園

与野本町小学校 卒業

麻布中学校・高等学校 卒業

東京大学理学部天文学科 卒業

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了

平成22年 東芝ソリューション株式会社 入社

平成25年 トヨタ自動車株式会社 入社(出向)

平成27年 さいたま市議会議員 当選

ご意見、ご要望などありましたら下記連絡先にご連絡ください



**井原ゆたか
事務所**

〒338-0002 さいたま市中央区下落合1071-1 MIビル3F

TEL:050-3418-7058 FAX:050-3588-4018

Email:contact@yutakaihara.jp

井原ゆたか 公式HP

<http://www.yutakaihara.jp>

